

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04730

研究課題名(和文) アジアにおける「地理的探究に基づく学習」の導入と実践に関する比較研究

研究課題名(英文) Introduction and practice of geographical inquiry-based learning in Asia

研究代表者

金 ヒョン辰 (Kim, Hyunjin)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10591860

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、持続可能な世界を目指し、生徒自ら地球のおよび地域的な課題の解決策を探る「地理的探究に基づく学習」に注目し、アジアにおけるその導入と実践を明らかにすることを目的とする。4年間の研究機関の中で最初の2年間は、アジアの地域や国(香港、シンガポール、中国、韓国)の中等地理カリキュラム及び教科書分析を行なった。そしてその結果を踏まえながら、3年目と4年目では日本における「地理的探究に基づく学習」のモデルを提案し、高校の新設科目「地理総合」での適用を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の地理教育では、知識の教授や野外調査などの技能を重視して来たものの、よりよい環境と社会を築くための行動までには結びつかなかった。本研究で注目した「地理的探究に基づく学習」では、持続可能な世界を目指し、生徒自ら地球のまたは地域的な課題の解決策を探ることができる。本研究の成果として提案した「地理的探究に基づく学習」は、地理的知識や技能だけでなく、より一層、持続可能な世界を築くための価値・態度を養う地理教育として、日本でも実践できる。特に、新設科目の「地理総合」を実施する高校の地理教育現場にも大きな示唆を与えられる。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on geographical inquiry-based learning which is an approach for students to develop their solutions of local and global issues for the sustainable world. The purpose of the study is to clarify the introduction and practice of geographical inquiry-based learning in Asia. During the four-year study period, I first analyzed the secondary geography curriculum and textbooks of Asian countries and regions (Hong Kong, Singapore, China, and South Korea). And then, I proposed a model of geographical inquiry-based learning, and tried to apply the model in the new high school geography subject in Japan.

研究分野：教科教育

キーワード：探究に基づく学習 地理教育 アジア 比較研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究代表者である金は、これまでの地理教育の国際比較研究を行う中で、生徒自ら地理の学びを学ぶ学習方法としての「地理的探究に基づく学習」のあり方を明らかにしてきた。アメリカやイギリスなど、欧米の地理教育においては、様々な課題を解決するために、生徒自らが地理的な観点からその解決策を探る「地理的探究に基づく学習」が強調されている。それは、「地理的探究に基づく学習」を通して、生徒が地理的知識や技能の習得だけでなく、持続可能な世界を築くために課題を解決しようとする価値・態度をも養うことまでの、総合的な市民的資質を身に付けることを目指しているからである。

日本の高校地理の改革の方向として、2011年に日本学術会議がグローバル化に対応した空間認識を育成する必要性を指摘し、「地理基礎」を新設・必修化することを提案した。この提案を受け、2018年度改訂の学習指導要領では、「地理総合」が新設され、そこで持続可能な社会づくりに必須となる地球規模の課題や地域社会の課題を解決する力を育むものとして注目されているのが、この「地理的探究に基づく学習」である。

これまで日本の地理教育では、世界の地理教育をリードしてきたアメリカやイギリスなど、欧米を対象とする研究が集中的に行われてきた。これは「地理的探究に基づく学習」でも同じである。しかし最近、アジアの「地理的探究に基づく学習」に関する研究の必要性を感じる。特に、シンガポールや香港の地理教育の改革では、イギリスの影響を受けてきた地理教育の伝統を維持しながら、世界的競争力を高めるために「地理的探究に基づく学習」を重視する特徴が見られる。研究代表者である金は、シンガポールの後期中等地理において地理的探究が強調されていることを CGE 0-Level 地理シラバスを分析したり、香港の中学校地理教育に関しても教科書を分析したりしてきた。しかし、こうした研究は、シンガポールと香港の地理教育を断片的に明らかにしたに過ぎず、カリキュラムから授業実践までの一貫した研究ではなかったことを反省点として挙げるができる。

そこで本研究は、シンガポールや香港などを事例に、中等地理カリキュラムおよび教材、授業実践の分析を通して「地理的探究に基づく学習」の導入と実践を明らかにした後、アジア的な「地理的探究に基づく学習」の内実を明らかにしていく。この研究により、日本の地理教育が進もうとしている「地理的探究に基づく学習」の内容および方法に関する示唆を得ることができる。

2. 研究の目的

持続可能な世界を目指し、生徒自ら地球的および地域的な課題の解決策を探る「地理的探究に基づく学習」が、アジアにおいてどのような内容と方法で導入され、実践されているのかを探ることが、本研究の目的である。また、アジアの地域や国における「地理的探究に基づく学習」を明らかにした後、相互比較を通して日本に適用可能な「地理的探究に基づく学習」のモデルを導くことまでを目指す。

3. 研究の方法

第一に、文献研究を通して、シンガポール・香港・韓国・中国における地理教育の動向を把握し、「地理的探究に基づく学習」の実践状況を明らかにした。具体的には、中等段階におけるカリキュラムおよび教材、実践を分析した。分析結果は順次に学会発表を行い、そこで得た意見を踏まえ分析内容の再検討を行なった。

第二に、分析したアジアの地域や国の「地理的探究に基づく学習」の様子を比較し、日本で適用可能な、「地理的探究に基づく学習」のモデルを開発した。その際、高校の「地理総合」における「地理的探究に基づく学習」の実践可能性を検討した。

研究開始当初は、現地調査を行ない、関連する資料や関係者とのインタビュー、授業参観を行う予定であったが、研究代表者の長期在外研究(2018年10月から2019年8月まで)と重なったことや、研究対象として設定した香港が情勢不安定なために実施が難しくなった。

4. 研究成果

4年間の研究期間で行った本研究の成果は以下のとおりである。

初年度の2017年度では、香港とシンガポールの地理教育の動向を把握するために、中学校カリキュラムおよび教科書などを含む文献研究を行い、日本地理教育学会にてその研究成果を発表した(「地理的な見方・考え方を導く地理的問い 香港とシンガポールの中学校地理カリキュラムの比較を通して」日本地理教育学会 第67回大会 上越教育大学)。そこで得た成果を踏まえ、研究内容を再検討し、論文にまとめることができた(「地理的見方・考え方の育成と地理的探究に基づく学習 - アジアの地理カリキュラムの比較を通して」、『21世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」』)。関連する国際学会において日本の高校地理教育の動向についての発表を行った(Japan's Geography Education at a Turning Point, The 12th KCJ Joint(3rd Asian) Conference on GEOGRAPHY JEJU KOREA)。この国際発表を通して、アジアの地理教育研究者から意見を聞くことができ、さらにコンピテンシーを重視している各国の地理教

育の動向を把握することができた。

2年目になる2018年度では、これまでの対象地域である香港とシンガポールに加え、韓国と中国まで研究地域を広げた。これにより、持続可能な世界を目指し、生徒自ら地球のおよび地域的な課題の解決策を探る「地理的探究に基づく学習」が、アジアにおいてどのような内容と方法で導入され、実践されているのかをより幅広く探ることができた。具体的には、韓国の沈光澤教授（晉州教育大学）と一緒に韓国の社会科教科書を分析した。時期別に地域の記述がいかに教科書叙述に反映され、またその記述がどのように変化してきたのかを明らかにし、日本地理教育学会においてその研究成果を発表した（「韓国の社会科教科書に反映された地域認識とその記述の変化」日本地理教育学会 第68回大会口頭発表 大阪教育大学、2018）。韓国の沈光澤教授（晉州教育大学）、中国の董玉芝教授（延辺大学）との共同研究を行なった。近年改訂された3国の高校地理教育課程の開発背景とその内容を比較し、その相違点と共通点を明らかにし論文にまとめた（韓国・中国・日本における高等地理教育課程の開発動向の分析、韓国地理環境教育学会、27（1）pp.29 - 52（韓国語））。以上のことから香港やシンガポールを対象とした前年度の研究成果と同様に、韓国や中国の地理教育でもコンピテンシーを重視していることが確認できた。

3年目になる2019年度では、これまで個別に分析したアジアの国や地域の結果を比較し、それを踏まえながら、日本における「地理的探究に基づく学習」のモデルを提案し、高校の新設科目「地理総合」での適用を試みた。具体的な活動としては、昨年度から引き継ぎ、韓国の沈光澤教授（晉州教育大学）、中国の董玉芝教授（延辺大学）との共同研究を行ない、韓国の学会にて発表を行った（「韓中日高等学校地理教育課程の比較分析」、韓国地理環境教育学会夏季研究大会、2019年6月、韓国教員大学校）。シンガポールの地理教科書を分析し、地理的探究に基づく学習の様子を明らかにし、日本の学会にて発表を行なった（「シンガポールの前期中等地理教科書から見る地理的探究に基づく学習」、中等社会科教育学会第38回全国研究大会、2019年11月、筑波大学）。地理総合における「地理的探究に基づく学習」の可能性を明らかにし、イギリスの学会にて発表を行なった（「The Geographical Enquiry as a model for Curriculum Making in the Japanese Context」、GTE Conference 2020、2020年1月、ロンドン大学）。以上のように、国内外での学会発表は大きな成果である。

最終年度である2020年度では、これまでの研究成果を踏まえ、力強い教授法という観点から理論の再構築ができた（「地理教育における教員養成の国際的動向 カリキュラム・メイカーとしての教師と力強い授業づくり」2021年日本地理学会春季学術大会2021年3月、オンライン）。

力強い教授法として「地理的探究に基づく学習」は、教科・教師・生徒という3つのエネルギー源から成り立つ。教科は学問的知識（概念）を基盤とする必要がある。そして、教科内容を教えるために教師は学問的知識に基づく問いを用いたカリキュラムの構成を試み、その問いを生徒に合わせた発問に換えた授業づくりを行う。それに対して、生徒は自ら答えを探し知識・技能を活用しながら学習を進むことができる。以上のことを踏まえ、開発した「地理的探究に基づく学習」のモデルは以下の図のようである。

まず、a.教科として地理の内容は、学問的知識（概念）で構成される必要がある。次に、学問的知識を教えるために、b.教師はその学問的知識に基づく問いを設定する必要がある。また、設定された学問的知識に基づく問いは生徒に合わせた発問に換えることも必要である。その際、生徒が問いを自分のものとして考えることができるように学問的知識と日常的知識を関連づけることも大切である。そうすることで、c.生徒は自ら答えを探すために知識・技能を活用することができる。どのような学問的知識が選択され、その知識を教師がいかに問いに転換し、さらに、問いに対して生徒がいかに向き合うのかという各場面においては、その教科の本質である見方・考え方を働く必要がある。特に、教師に問いの設定における見方・考え方の働きは教科と生徒を結ぶ力強い授業の土台である。

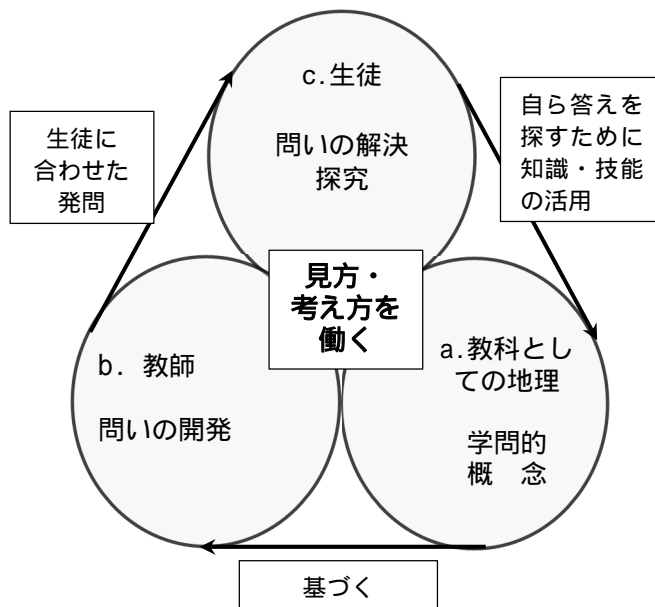


図 「地理的探究に基づく学習」のモデル

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kwangtaek Sim, Yu Zhi Dong, Hyunjin Kim	4. 巻 27
2. 論文標題 Analysis of Development Trend on Korean, Chinese, and Japanese High School Geography Curriculums	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of The Korean Association of Geographic and Environmental Education	6. 最初と最後の頁 29～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.17279/jkagee.2019.27.1.29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 金ヒョン辰
2. 発表標題 地理教育における教員養成の国際的動向 カリキュラム・メイカーとしての教師と力強い授業づくり
3. 学会等名 2021年日本地理学会春季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hyunjin Kim
2. 発表標題 The Geographical Enquiry as a model for Curriculum Making in the Japanese Context
3. 学会等名 GTE Conference 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金ヒョン辰
2. 発表標題 シンガポールの前期中等地理教科書から見る地理的探究に基づく学習
3. 学会等名 中等社会科教育学会第38回全国研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 沈光澤・董玉芝・金ヒョン辰
2. 発表標題 韓中日高等地理教育課程の比較分析
3. 学会等名 2019年度韓国地理環境教育学会夏季研究大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 沈 光澤・金 ヒョン辰
2. 発表標題 韓国の社会科教科書に反映された地域認識とその記述の変化
3. 学会等名 日本地理教育学会 第68回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金ヒョン辰
2. 発表標題 地理的な見方・考え方を導く地理的問い 香港とシンガポールの中学校地理カリキュラムの比較を通して
3. 学会等名 日本地理教育学会 第67回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hyunjin KIM, Yoshiyasu IDA, and Takashi SHIMURA
2. 発表標題 Japan's Geography Education at a Turning Point
3. 学会等名 The 12th KCJ Joint (3rd Asian) Conference on GEOGRAPHY (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	沈 光澤 (Sim Kwangtaek)		
研究協力者	董 玉芝 (Dong Yu Zhi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	晉州教育大学			
中国	延辺大学			